

特集「2018年度研究会優秀賞受賞論文紹介」にあたって

斎藤 博昭

(慶應義塾大学)

櫻井 祐子

(産業技術総合研究所)

上田 晴康

((株) 富士通ゼネラル)

加藤 恒昭

(東京大学)

人工知能学会には、特集「研究会紹介」にあたって述べたとおり、現在、24の研究会が活動している。各研究会は、単独、他学会との連携、あるいは合同研究会で年間2～4回の研究会を開催している(2018年度の開催総数は61回、一般発表の論文数は452件)。また、一部の研究会は独自のセミナーや全国大会でオーガナイズドセッションを開催している。中でも、合同研究会は、全国大会と双璧をなす研究イベントとして、多くの研究会が参加し、2011年以降、毎年開催されている。合同研究会2018は2018年11月22日(木)～23日(金、祝)に慶應義塾大学矢上キャンパスで開催された。14研究

会が参加し、プレナリー招待講演2件、発表件数86件(一般発表)、研究会招待講演など17件が行われ、参加者数801名(合同研究会2017では773名)、企業スポンサー21社(うち展示14社)と大変盛況であった。

このようにアクティブに活動を行っている研究会活動に対して、本学会では、毎年、研究会での発表年間総数の5%以内に、研究会優秀賞受賞論文を選出している。選出のプロセスは、各研究会から候補選出を行った後、その候補に対して、研究会運営委員会、および理事会が、選考過程の透明性や内容の妥当性を審議、授賞を決定する形となっており、時間をかけ、厳正な審査を行っている。

表1 2018年度研究会優秀賞受賞論文一覧

研究会	論文タイトル	著者
FPAI	近傍法と形式概念解析を用いた制約付きクラスタリング	米田ほか
FPAI	整数計画法に基づく学習済み決定木の公平性を考慮した編集法	金森ほか
KBS	構造特徴とグラフ畳み込みを用いたネットワークの半教師あり学習	立花ほか
SLUD	雑談対話からのユーザの興味推定	稲葉ほか
SLUD	対話のふるまいに基づくキャラクタ表現の対話コーパスにおける分析	山本ほか
ALST	モデリング学習環境における支援タイプの違いが学習者の振舞いおよび学習効果に与える影響の検証	堀口ほか
ALST	レイティングデータとテキスト情報を用いて受験者の能力を推定する項目反応トピックモデルの提案	宇都
Challenge	単語のベクトル表現を用いたレシピ推薦システム	矢野ほか
LSE	ことばから導くブランドポジション—ブランドの印象を表す言葉とその捉え方の変化を探る	古宮ほか
SKL	少林寺拳法における逆突きの熟練度評価モデルの構築	鈴木ほか
SAI	子ども虐待におけるAI実装：pLSAとベイジアンネットワークを用いた再発事例の検討	高岡ほか
FIN	金融時系列のための深層t過程回帰モデル	中川ほか
KST	Eagle Searchを利用した廃止措置情報可視化の取り組み	樽田ほか
KSN	ライフログに基づくテレビ広告のThree-hit theoryの検証	加藤ほか
SWO	Mapping Science—ナレッジグラフに基づく科学技術マップの高度検索と対話的操作の実現	江上ほか
DOCMAS	競輪予想記事の自動生成に向けた深層学習によるレース結果予測	吉田ほか
BI	利用者均衡を満たす混雑予測を用いた最適人流制御	山田ほか
AIMED	Temporal Feature Set from Electronic Health Records	大野ほか
AM	家庭内行動の深掘りを目的としたIoTセンサによる行動観察手法の提案	服部ほか
CCI	多様性のあるユーザー参加型コミュニティによる地域共創型の獣害対策の取り組み	福岡ほか

本企画の学会誌特集「研究会優秀賞受賞論文紹介」は、以下の 2 点を通じて、研究会優秀賞の授与を研究会活動のさらなる発展に貢献させることを目的に、研究会運営委員会が企画しているもので、2017 年より続けている。

1. 優秀賞受賞者を奨励し、その研究内容を広く知ってもらおう。
2. その年度の「研究会の顔」ともいえる優秀賞受賞論文を通じて研究会の活動内容を世に広く知ってもらう。

表 1 に示すように 2019 年は、前年度にあたる 2018 年 4 月～2019 年 3 月の発表から 20 件の研究会優秀賞を決定した (2018 年度は 13 件)。いずれも、その年の各研究会を代表する論文である。この特集でご興味をもたれた方は、AI 書庫や各研究会のホームページなどから論文をダウンロードいただき、ご一読いただければ幸いである。